

第23回日西経済合同委員会 概要報告

1. 開催日時：平成25年6月11日（火）～12日（水）

2. 開催場所：スペイン造幣局（スペイン、マドリード）

3. 出席者：総勢342名

日本側 佐々木幹夫委員長（三菱商事相談役）、中村利雄・日本商工会議所専務理事はじめ61名。

スペイン側 マヌエル・テルエル・スペイン商工海運会議所最高評議会会頭（Taimwesser社 Executive Chairman）、ホセ・マヌエル・エントレカナレス委員長（Acciona社 Chairman & CEO）、ハイメ・ガルシア・レガス・スペイン経済競争力省 商務長官をはじめ281名。

4. 会議総括：

- ① 支倉常長による慶長遣欧使節団派遣から400周年に当たる2013年から14年にかけて開催される日本スペイン交流400周年記念事業の一環として、交流年名誉総裁であられる皇太子徳仁親王殿下ならびにフェリペ皇太子殿下ご臨席のもと、約10年ぶりに日西経済委員会合同会議を開催した。
- ② 日西経済委員会合同会議の活動再開に伴い、開会式においてマヌエル・テルエル・スペイン商工海運会議所最高評議会会頭と中村利雄・日本商工会議所専務理事による覚書への署名式を行った。この覚書は1978年に委員会設置のため両会議所間で締結した規約を改訂するものであり、委員会の活動目的に「他国市場での両国企業の協力推進」を加えるなど、実態に即したものとした。
- ③ 開会式では、両国皇太子殿下から祝辞を頂戴した。皇太子徳仁親王殿下からは「スペインや日本が直面する様々な課題を克服し、新たな地平を拓くためには、創造的で進取の精神に富む企業家の皆様の活躍が極めて重要であると思います」とのお言葉を賜った。
- ④ 全体会議では、「アジア（日本）及び欧州（スペイン）の経済見通し」「日本・スペイン企業の第三国市場での事業展開」「中小企業ビジネスの活性化」について議論した。
- ⑤ 閉会式では、今後とも合同会議などを通じて、両国間の貿易・投資、経済協力、観光事業の促進、および他国市場での協力拡大に向け、両国経済界の交流を更に緊密化することを確認する共同声明を採択した。
- ⑥ 以上のほか、日本スペイン交流400周年記念事業の一環として日本スペイン交流400周年記念硬貨の贈呈式、交流年開幕記念音楽会が開催された。

5. セッション別概要

（1）開会式

マヌエル・テルエル・スペイン商工海運会議所最高評議会会頭が歓迎挨拶に立ち、合同会議再開への期待、両国皇太子殿下にご臨席いただいたことへの謝意が述べられた。

続いて、ホセ・マヌエル・エントレカナレス 西日経済委員会委員長は、「過去10年で

スペインから日本への輸出額は約2倍になった。日本からスペインへの投資も、エネルギー、自動車、漁業、観光と拡大しており、さらに第3国における事業の協働機会もある。両国間の通商関係の発展、経済人同士の信頼感の醸成に尽力したい」と挨拶した。

佐々木幹夫 日西経済委員会委員長は、「交流400周年記念行事を通じて、政治・経済のみならず、文化、観光、教育、科学技術等、幅広い分野で両国間の交流がさらに深まることを心から祈念する」と述べた。



開会式の様子

次に、政府代表として出席されたハイメ・ガルシア・レガス スペイン経済競争力省商務長官は、「両国経済の関係強化、新事業分野の開拓において、合同会議の果たす役割に期待している」と語った。

続いて、マヌエル・テルエル会頭ならびに中村利雄・日本商工会議所専務理事による覚書への署名式が行われた後、両国皇太子殿下からご祝辞をいただいた。皇太子徳仁親王殿下は「両国の経済を担う企業関係者相互間の対話と交流が促されることを期待しています」とお話しされ、フェリペ皇太子殿下は「両国のポテンシャルを考えると、経済関係はまだまだ強化される。両国経済委員会の存在意義は大きく、400周年のオープニングを飾るにふさわしい」とお話しされた。



佐々木委員長

(2) 第1回全体会議「アジア（日本）及び欧州（スペイン）の経済見通し」



左から倉内氏、テルエル会頭、ピケ氏

マヌエル・テルエル会頭がモデレーターを務め、ジョセップ・ピケ氏（日本・スペイン・シンポジウム スペイン側座長、プエリング社会長）と倉内宗夫氏（三菱東京UFJ銀行 専務執行役員）がスピーチを行った。

ピケ氏は、「欧州の危機は制度的な要素が強く、政治的なリーダーシップが必要である。經常収支の改善、労働市場改革、年金改革など時間は掛かるが、生産性・競争力の向上が実現されており、欧州経済は年末か来年初頭に回復局面に移ることが期待される」と述べた。

倉内氏は、アベノミクスについて、「少なくとも今のところは非常にうまくいっている。財政再建や社会保障改革など未解決の課題はまだ多いが、日本経済再生には十分な勝算があり、痛みを伴う構造改革を断行する絶好のチャンス」と述べた。

(3) 第2回全体会議「日本・スペイン企業の第三国市場での事業展開」

コリエソ・ゴンザレス・イスキエルダ氏（ICEX社長）がモデレーターを務め、フランシスコ・J・リベラス氏（ゲシュタンプ社 会長）と吉村宗一氏（日本貿易振興機構 理事）がスピーチを行った。

リベラス氏は、特に自社における自動車部門（金属部品製造）での取り組みについて、「成長市場を先取りして海外展開し、スペインを代表する企業になった。中南米市場、アフリカ市場、欧州市場を見た場合、スペインは地政的に有利な位置にあり、日本企業がこれらの地域へ事業進出する際にサポートできる」と発言した。吉村氏は、日本企業の海外展開の状況、第三国における両国間の協働、海外展開に際してのJETROの支援等を説明し、「日本とスペイン企業がさらに協働するに当たり、日EU EPAは重要である」と述べた。



左から吉村氏、イスキエルダ氏、リベラス氏

(4) ビジュアル・プレゼンテーション「東日本大震災からの復興の経験」



中村氏によるプレゼンテーション

中村信義氏（朝日新聞 仙台総局員）によりプレゼンが行われた。市場経済（人件費や資材の高騰等）が復興の遅れの一因となっている問題に触れ、「より良いアイデアを官民挙げて考え出し、実行に移していくことが復興を進める上でとても大切になっている」と強調した。（6月11日～23日、セビリヤにて「東日本大震災報道写真展」が開催された）。

(5) 第3回全体会議「中小企業ビジネスの活性化」

ハビエル・カレテロ スペイン商工海運会議所最高評議会部長がモデレーターを務め、ミゲル・アンヘル・カリエッハ氏（ソラリグ・ホールディング社 最高経営責任者）と中村利雄・日本商工会議所専務理事がスピーチを行った。

カリエッハ氏は、「ビジネスの成功の鍵は、長期的な視野に立って計画性を持って決断すること。できるだけ初期の段階に、地元精通した人とネットワークを組むことが重要」と述べた。中村専務理事は、日本の中小企業の現状、IT化・グローバル化・構造変化に対応すべく中小企業の海外展開が急速に進んでいること、また、中小企業のイノベーションを推進するための国や商工会議所による支援活動等を紹介した。



左から中村専務、カレテロ氏、カリエッハ氏

(6) 閉会式

閉会式では、このたび改訂された覚書に基づき、今後、合同会議などを通じて両国間の貿易・投資、経済協力、観光事業の促進、および他国市場での協力拡大に向け、両国経済界の交流を更に緊密化することを確認する共同声明が採択された。



左から中村専務、佐々木委員長、テルエル会頭、エントレカナレス委員長

6. その他

(1) 日本スペイン交流400周年記念硬貨の贈呈式

合同会議の開会式に先立ち、日西交流400周年記念硬貨の贈呈式が行われた。ハイメ・サンチェス・レベンガ スペイン造幣局理事長の挨拶に続き、両国造幣局理事長から両国皇太子殿下に記念硬貨が贈呈された。



両国皇太子による記念硬貨交換

(2) 交流年開幕記念音楽会〈於：王立劇場〉

日本スペイン交流400周年実行委員会と在スペイン日本大使館の主催により、合同会議の後、午後7時から王立劇場において開催された。支倉常長の壮大な旅から着想を得て作曲された日本スペイン交流400周年のテーマ曲を含め、両国の交流を主題とした楽曲が演奏され、合同会議出席者も招待された。

(3) 視察会〈於：Indra社〉

合同会議の翌日（12日）、スペイン最大のシステム・インテグレーターとして世界128カ国以上で展開するグローバル企業、インドラ社を視察した。

以上